



発行者 渡辺 克彦
 連絡先 渡辺倶楽部
 携帯 070-6664-9663

第三回東京東筑会鎌倉散策会

十二月一日秋晴れの中行われました

今回のテーマは鎌倉幕府の跡と鎌倉幕府(北條氏)終焉の跡を尋ねてでした。鎌倉駅東口に十時集合。散策会会長の挨拶、本日の行動予定など打ち合わせ集発。今回からは散策会の旗の下、行動をする。これが意外な効果を発揮するのであった。

第一番目に訪れたのは本覚寺(ほんがくじ)。

開山の日出は足利持氏から寺を建ててもらった。二代目日朝は後に身延山久遠寺の貫首になった際、日蓮の遺骨を本覚寺に分骨したので東身延と言われることになった。日蓮が佐渡から許されて、鎌倉に帰って来た時の夷堂に一時身を寄せた。有名な刀工正宗父子は度々日蓮を訪れ、日蓮は正宗を可愛がっていた。正宗の名は日蓮がつけてくれた。境内には刀工岡崎五郎正宗の墓と供養塔がある。



本覚寺山門で最初の集合写真



正宗の墓



夷堂橋

鎌倉十橋の一つでこの辺に昔夷堂があったといわれている。

妙本寺

この谷は比企谷といひ比企能員一族の屋敷跡

である。能員は二代將軍頼家の舅で、頼朝の有力御家人として勢力を持っていた。北条時政と頼家の間がうまくいっていなかったの

で、時政と政子が頼家を廢嫡隠居させ弟の実朝を立てようとしたため、能員は当然反対し北條氏を倒そうとしたが計画が未然に漏れ北條氏の不意討ちにあい、比企一族と頼家の長男一幡はこの谷で戦死、頼家は修善寺に幽閉され翌年殺される。



妙法寺方丈



比企能員屋敷跡



日蓮上人像

日蓮辻説法跡

日蓮が房州から鎌倉に来た時は、風水害・大地震・早魃・飢饉・疫病・大火などの天変地異が相次いで起こり、施錠不安の状態であった。日蓮はこの小町大路の辻で、邪教を信ずるから災害が起こるのだと、説法を繰り返して説き民衆の帰依を得た。

日蓮上人説法跡で波田さんの話を聞く東筑会の人たち



武家屋敷と商人の町との境になっていたところで、人通りの多いところであつた。垣の中に日蓮腰掛の石がある。正しい教えとして法華経を説いた。

妙隆寺

この辺り一帯は鎌倉幕府の有力御家人千葉常胤の子孫胤貞の別邸だった。先祖追福のため、七堂伽藍を建立し妙隆寺を創建し、下総の中山法華経寺から日英上人を開山に迎えた。二代の日親上人は立正治国論を建白したが容れられず灼熱の鍋を頭にかぶせる拷問を受けたがそれでも主張を曲げなかったので、「鍋かむり日親」の偉名がつけられた。

この地には宇都宮下野守泰綱の屋敷があつたことからこの名がつけられた。ここに有る稻荷神社は一族の屋敷神である。御成敗式目もここで制定された。政子や義時と確執があり失脚して京都へ移る。後に藤原定家と親しくなり子孫は「宇都宮歌壇」を開く。

た。この地には宇都宮下野守泰綱の屋敷があつたことからこの名がつけられた。ここに有る稻荷神社は一族の屋敷神である。御成敗式目もここで制定された。政子や義時と確執があり失脚して京都へ移る。後に藤原定家と親しくなり子孫は「宇都宮歌壇」を開く。



妙隆寺



日親上人石像

北條政子が亡くなった後、幕府移転の計画が持ち上がり、方角も良く空いていたこの地に大蔵幕府が移され

宇都宮辻子幕府から幕府が移されたのは、二どの地震により主要建物が倒壊したからだ



宇都宮稻荷神社



宇都宮辻子跡碑

若宮大路幕府跡



東筑50期と59期の夫婦

源氏池のほとり

ここで夫婦で50期59期の方から声をかけられる。東筑のかたですか？私たちも東筑です。鎌倉散策会の旗をみて声をかけずにはいられなかったようです。



若宮大路幕府跡碑

考えられている。元弘三年までの九八年間政治の中心であつた。頼朝から守邦王まで続くが九代將軍守邦王が最後の將軍である。また執権は三代北條泰時十六代守時と得宗中心に続いた。

東勝寺跡

この寺は青龍山東勝寺といつて関東十刹の一つであった。創建は三代執権北條泰時で、以後北條氏の菩提寺となった。十四代執権北條高時は、元弘三年(1333年)新田義貞の鎌倉攻めに抗しきれずに、一族郎党をここに集め、名残の宴を開き寺に火をかけ切腹した。供をする者実に870余人、ここが北條氏・鎌倉幕府終焉の地である。



高時切腹やぐら

このやぐらは、東勝寺で切腹した高時等の墳墓と言われている。死

者があまりにも多かったため、このやぐらに入りきれずに、尾根伝いに釈迦堂のやぐらに、葬られたものもあるようだ。「やぐら」は鎌倉付近の山腹に残る墳墓である。その源は原始時代の横穴式墳墓であると考えられる。その多くには内部に人骨があり五輪塔・宝篋印塔・板碑などが残っている。人口が集中し平地の不足が生んだ鎌倉独特の文化と考えられている。



高時腹切りやぐら

宝戒寺

ここは北條執権屋敷跡である。北条一族が滅んだ二年後、後醍醐天皇が足利尊氏に命じて、北條一族の霊を弔うためにこの寺を建立した。



宝戒寺



北條執権屋敷跡の碑

大蔵幕府跡

千八百十年(開幕前三年)から千二百二十五年四十六年間武家政治の中心がここにあった。その間三回の火災にあったが、政子の死を契機に千二百二十五年三代執権泰時により宇都宮辻子幕府へ移された。



大蔵幕府跡

頼朝の墓

頼朝は千九百九十九年五十三歳で他界、その死因ははっきりしない。最初は持仏堂として建てられた法華堂に祀られていたが、後には高さ一メートルほどの五輪塔の墓であったといわれていた。現在の石塔は千七百七十九年島津重豪(シゲヒデ)が大御堂から層塔を移し、建て直したものとされている。重豪はこれと同時に島津家の祖といわれる島津忠久の墓を裏山に造っている。



頼朝の墓



法華堂跡

三浦一族の墓

北條氏との確執を巧みに避け、勢力を保って来た三浦氏も、千二百四十七年、名越(北條)光時の謀反に加担したという理由で、足達一族と北條時頼の連合軍



三浦一族の墓

島津忠久 大江広元の墓 毛利季光

島津忠久は母が頼朝の乳母である比企尼の長女であった関係で、頼朝の台頭と共に、撰閣家に仕える武者から、頼朝の御家人になり重用された。大隅国・薩摩国の守護に任じられた。千二百一十七年没。千七百七十九年、墓を

に攻められ、現在の横浜国大付属小学校の位置にあった屋敷で、午前中は良く善戦したが、午後は風向きが変わり屋敷は焼け落ちた。一族はやむなく頼朝を祀った法華堂に集まり、法華堂を血の海にして、一族郎党他五百余人が自害して果てた。これが宝治の合戦でこのやぐらが三浦一族の墓である。



大江広元の墓



島津忠久の墓

造った島津重豪は、島津第二十五代当主、薩摩藩第八代藩主。一八三三年没。大江広元は一八四四年従五位で頼朝に招かれて鎌倉入りし、公文所の別当として重用された。幕府政治の安定に貢献した。その功績により相模毛利荘地を治めることに成った。一二二五年七八歳で卒した。毛利の祖である毛利季光は広元の四男である。その四男経光は宝治の合戦に巻き込まれず所領を安堵された。経光の二男時親は南条と安芸吉田荘を相続し、戦国大名安芸毛利家の始祖となって毛利元就へと繋がっていく。広元・季光の墓は安政五年一八五八年春毛利藩相模駐在の藩士により建造された。

荏柄天神

本殿は室町時代初期に建てられた、鶴岡八幡宮の旧若宮の社殿を、江戸時代に移築したもので、国の重要文化財で境内は国の史跡。絵筆塚、カップ筆塚がある。



毛利季光の墓



絵筆塚



絵筆塚



荏柄天神

文覚上人屋敷跡

長谷川一夫・京マチ子の映画「地獄門」のモデルになった上人の屋敷跡



カップ筆塚



文覚上人屋敷跡



勝長寿院舊蹟

今回も有意義な散策会でした。次回は五月の予定です。 『編集六三期渡辺克彦』